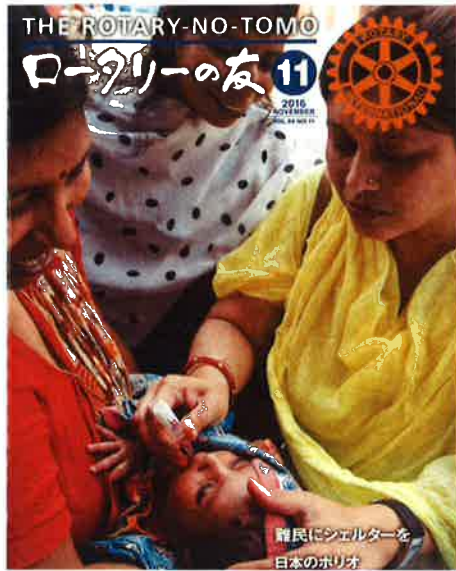


友のお供新聞

水戸RC
雑誌委員会

発症から撲滅へ

日本のポリオ、課題も



ロータリーの友11月号の表紙

京都モーニングRC創立会員で、医師の太田和夫さんが日本のポリオの発症から根絶の状況、そして今後の課題について報告しています。(●横組12P)

太田さんは、日本で多くのポリオ患者が発生したことを受け、京都に設立された「肢体不自由児施設聖ヨゼフ整肢園」(現・聖ヨゼフ医療福祉センター)で約6年間、ポリオの治療に携わっていました。

日本では1964年、生ポリオワクチンによる定期接種が開始され、1981年以降には野生ポリオウイルスは検出されておらず、2000年にポリオの根絶をWHOに報告しています。また、1988年に国際ロータリーがWHO、ユニ

難民にシエルターを

UNHCRが支援呼びかけ



南スーダン実施されたUNHCRの支援活動

東京中野RC(現・東京セントラルパークRC)の推薦で、財団国際親善奨学生として2005年にイギリスに留学した阿阪奈美さんが、難民の実態を報告、支援のための資金提供を呼びかけています。

阿阪さんは、2008年以来、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の職員として南スーダン、スーダン、エチオピアなどで活動しています。UNHCRは2016年5月、グロバル・シエルター・キャンペーンを開始し、2018年までに難民200万人のためのシエルター建設、または改善のための資金提供を呼びかけています。

ロータリーの友を読もう

みなさん、「ロータリーの友」11月号を手にしませう。ぜひ縦組み31ページをご覧ください。掲載されているんです。水戸RC雑誌委員会が発行している「友のお供新聞」が、

★米から研修チーム来訪

基本的な教育と識字率向上を目的に米第7930地区から職業研修チーム(VTT)が来日、千里RCなどと交流しました。同RCが以前、財団国際親善奨学生を派遣したことがきっかけ。

(●横組20P)

★小泉八雲から考える

島根県立大短期大学部教授で小泉八雲記念館長の小泉凡さんが、国際ロータリー第2590地区のIMで講演。「オープン・マインドを現代に生かす 小泉八雲から考える」と題して話されました。

(■縦組4P)

★R・I・Mにオオリ氏

国際ロータリー(RI)会長指名委員会が開かれ、2018〜2019年度RI会長として、ウガンダのカンパラ・ロータリークラブ所属のサミュエル・オオリ氏が満場一致でノミニーに指名されました。

(●横組33P)

★ロッカーがポリオ撲滅大使

ロックの殿堂入りを果たしたドノヴァン・レイッチ氏がロータリーのポリオ撲滅大使になりました。ドノヴァン氏は3歳でポリオに感染、幼少期を病床で過ごしながらも克服、音楽で大成しました。

(●横組19P)

★東京中野RCが支援呼びかけ

東京中野RC(現・東京セントラルパークRC)の推薦で、財団国際親善奨学生として2005年にイギリスに留学した阿阪奈美さんが、難民の実態を報告、支援のための資金提供を呼びかけています。

(●横組8P)

『友』誌より人気!?

「お供新聞」は今月、第5号となります。今回は、日本のポリオの経過状況、難民の問題などを取り上げましたが、いずれもロータリーと深く関わっています。記事を読んでいますと、いかに世界のロータリアンがみなさんが国際貢献されているか、驚かされるばかりです。(風蔵)

(風蔵)